

第 28 回 消費者問題懇話会

「信頼される企業であり続けるために

～消費者志向経営のためのCSR活動のあり方～

2月9日（金）ドーンセンターにて、消費者問題懇話会が開催されました。賛助会員7人、一般6人、マスコミ2人、NACS会員21人、講師・来賓5人、スタッフ10人あわせて51人の参加がありました。当日は小雨降るあいにくの天気でしたが、大会議室がほぼいっぱいになる盛況ぶりでした。

この懇話会も今回で28回目、テーマは昨年来より企業の不祥事が続いていることから、消費者に信頼される企業であり続けるためのCSRのあり方をメインにしました。

三沢支部長のあいさつに続き、近畿経済産業局・消費経済課長 森口悦光氏にごあいさつと昨年12月に改正された「消費生活用製品安全法」のポイントを解説していただきました。次にNACS常任理事・消費者志向マネジメントシステム特別委員長 古谷由紀子氏による「信頼される企業であり続けるために～CSR最新事情を中心に～」の講演がありました。企業のCSRについての関心が高まる中、消費者の信頼を失墜するような事故が相次いで、信頼回復のためにどうしたらいいか、リスクマネジメントの観点から最新事情を交えて、お話しいただきました。

そのあとACAP常任理事・西日本支部長 馬場新一氏の「製品の回収措置に関する情報の利用状況についての調査研究」というアンケートに基づく詳細な調査結果の発表があり、続いてびわこ銀行・環境事業部長 中山和郎氏から金融機関としての具体的なCSR活動、特に環境面に配慮した取り組みの紹介がありました。

最後に、7つのグループに分かれ、意見交換会を行いました。講演の熱気をそのまま引き継ぎながら、講演内容や日常の仕事、生活で感じていることから地球環境問題まで、幅広い話し合いがなされ、何か新たな決意のようなものが参加者のそれぞれの中に生まれたようにも感じました。

参加者の感想もなかなか好評でした。内容の濃い、参加型の懇話会になったと思います。次回はぜひみなさんも参加してください。

（兵庫 小野浩二）



（聴衆を前に熱く語る古谷氏）

＝参加企業＝

（株）NTT ドコモ関西、小林製薬（株）、
（社）滋賀県銀行協会、象印マホービン（株）、
ソニーマーケティング（株）、（株）ニッ日本
ハム（株）、松下電器産業（株）、ミズノ（株）、
（株）リブドゥーコーポレーション